

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3391000019		
法人名	社会福祉法人 愛誠会		
事業所名	グループホーム 心		
所在地	岡山県新見市唐松1749-2		
自己評価作成日	平成23年3月1日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3391000019&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成23年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域・家族とのつながりを大切にしながら、ご本人の主体性を尊重して地域の行事への参加等自由な外出を支援している。職員と利用者との日々の関わりの中で、真剣に向き合う中でご利用者の心の声・思いを引き出し支援につなげている。又、ご家族の方とのコミュニケーションについても、小さな変化等細かい情報を共有しながら、ご本人を中心に一緒に共に考え・支え合うという関係づくりを行っている。どのような認知症症状があっても、その人の人生に思いを寄せ、自立支援、生きがいを創りだす広がりのあるケアをモットーとしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年度訪問した時は、現在の管理者が交代で就任したばかりだった。それから丁度1年経過して2度目の再会をした。ホームとしては5年経過して立派な経歴を重ねている。会議の議事録を見ていると、昨年4月にこの管理者の方針が記されていた。その表題として、“グループホームは利用者にとって生活の場である”ということが掲げられていた。そして最近の会議で、“記録の重要性を説き、記録はケアにつなげるポイントを示す。それを理解して書かれたものはケアの評価しやすいものになる。本人の思いを感じられる言葉を具体的に示すことが必要である。この記録が介護計画の重要な情報となる”というようなことが記述されており、ここに私の思いを共感できる人がいたと嬉しくなった。得てして、介護現場の記録や介護計画は介護保険制度の為に作っている感じがしていた介護現場に、こんな考えをしている介護職の人が居ることに大変心強く嬉しく思った。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を共有し、ケア方針・方向性を話し合う上で、必ず共通認識として、位置づけ具体的なケアについての話し合いにつなげている。	法人の理念を基に、グループホームの介護理念～一人ひとりのその人らしさを大切に～を決め掲示し、日々の支援に生かすようにしている。また、日常の介護で迷った時の道しるべにしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の各種団体との様々な形での交流が30年間続いており、施設自体が地域住民の憩いの場、研修の場、イベントの場となっている。また、防犯上も子供110番の場所、避難場所として地域に認識されている。	唐松荘と合同主催のさくら祭り、夏祭り、敬老会等の行事に家族や地域の方々も参加して地域との交流も深まっている。また、毎年地元の小学生、中学生たちの体験学習も引き受けている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成においては講師を派遣し、また認知症ケア等取り組み等について、地域住民やご家族に対し実践報告会を、年2回開催し、ケア内容を公開するとともに、認知症に対する理解やケア方法を還元している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近ではメンバーの方からの要望にて、プライベートに配慮して具体的な事例報告を行ったり、又質問意見等をうけ活発な意見交換がされ、サービスの向上に取り組んでいる。	会議ではホームからの報告や参加メンバーから質問や意見、要望を受けている。参加している家族から問題提起されると場が和み、議論が広がることが多い。	運営推進会議のメンバーを家族の代表一人にせず、もっと多くの家族とできれば本人にも参加して欲しい。問題提起も増え、会議ももっと活発な意見交換が行われるのではないのでしょうか。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に毎回、新見市高齢者支援課職員の派遣を要請し、会議に出席してもらい、各委員との情報共有や情報交換、地域との連携状況、ケア状況について市としての意見を求めている。	運営推進会議に出席した市職員が介護保険の改正等について説明し、地域へ啓発活動が行われている。ホームは市へ日常の報告や相談は行っているが、困難事例等については荘内で相談し解決する事が多い。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の状態等細かくキャッチして、職員間で連携を図りながら、外出時等さりげなく一緒についていったりしながら、安全に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。	入院中おしめをはずす為、つなぎ服着用の方が居たが、ホームで原因を調べおしめかぶれが判明、皮膚科受診と適切なトイレ誘導によりおしめかぶれが治り、おしめはずしがなくなった事例もあり、現在身体拘束の事例はない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の中で高齢者虐待防止法などについて学び、理解を深めている。又、言動についても配慮してスタッフ間で気をつけて注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用された方が入所された事もあり、再度勉強会を開き職員の理解を深めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は法人の職員と管理者が説明を行っている。利用側の立場に立ち、ていねいに説明を行いながら、そこで疑問・不安等ある場合はお聴きして納得して頂けるよう説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	細かい事でも連絡したり、面会時お伝えして気軽に何でも要望等言ってもらえるような関係作りに努め、要望等はケアに反映させている。	家族が遠方で中々面会できない人も居るが、折にふれ本人の様子を知らせ、常にコミュニケーションをとっている。また、ホームでの様子を写真に撮り、アルバムを作って家族に大変喜ばれている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善委員会、両立支援委員会において協議され提案された意見や改善点について、全体に周知すると共に、幹部会議に提案し規則への反映等を行っている。	唐松荘全体の業務改善委員会や仕事と子育てが両立できるように支援する委員会があり、職員の意見を述べやすい仕組みがある。また、託児所もあり、職員が働きやすい環境になっている。法人の主催する事業所の事例発表会でホームからも発表した。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、職場内研修を年2回30講座程度を企画し実施している。さらにキャリアパス制度を就業規則において定め、職階と問われる能力、必要な資格及び給与への反映等が明確に示されている。子育てしやすい職場環境としてくるみマークの取得と、ワークライフバランスに取り組んでいる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初級・中級・上級別に研修を行い、それぞれのレベルに応じた指導・教育を行うとともに、新人職員には一年間を限度にプリセプターを置き、職員の定着と育成に当たっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修に積極的に参加させると共に、法人内の他施設研修にも参加させ、モチベーションとケア内容の向上を推進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接でご本人の生活状況を把握するように努め、ご本人にお会いして生活歴等伺いながら、ご本人の気持ちを受け止め職員と信頼関係を図って頂けるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階でご自宅に伺ったり、こちらに訪問して頂いたりする中で、今までの経緯・ご家族のお気持ち等じっくりお聴きし、思いに応えられるよう支援に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時状況等を確認しながら、利用開始までに信頼関係を築いてもらえるように努め、必要なサービスにつなげていけるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の方と共に生活しているという視点に立ち、「喜び」「悲しみ」等といった気持ちに寄り添い、一緒に感情を分かち合えるような関係作りを行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細かいご利用者の変化や日々の様子等お伝えしながら、ご家族の思いを十分にお聴きして、ご本人のケアについて共に考え支援していくという関係づくりに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方に協力して頂きながら、地域に暮らす中のよい知人・友人等に会いにいたりして交流ができ、関係性が継続していけるように努めている。	家族が自由に訪問して頂くのは勿論、通院の帰りに知人に会ったり、特養に入所している馴染みの人もホームに会いに来れる等支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、情報を共有して見守りを行い職員が間に入りながら、調整役となりお互いが助け合い・支援できるような関係作りができるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方についても、今までの生活が継続できるようにこれまでの支援の様子・配慮してほしい点等細かく情報提供している。又、必要に応じいつでも連絡して頂けるよう連携に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の細かい観察(表情・言動等)を行う中で、職員間で連携を図り、その人の思いを推測し把握できるように努めている。	本人や家族から昔の話をじっくり聞き、興味のあった事を伺う。例えば料理するのが好きだったと聞けば、食事作りを手伝っていただく等支援につなげている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人へのより深い理解へつなげていけるように、ご家族の方に協力してもらい、情報収集し一人一人の生活歴等把握することに努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人一人の生活リズムを理解した上で、日々アセスメントを行い、出来る事に着目してご本人の状態の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、ご家族・本人へ働きかけを行い、思いが引き出せるように努め、いろんな方面からの考え方・意見を反映した上で介護計画を作っている。	日々の記録や家族、職員の目線から情報を集め、アセスメントを行い介護計画を作り、全職員で話し合い、ケアに入る。その後モニタリング・カンファレンスを行い、次回のプラン作成に役立てている。	介護計画策定のもとになる日々の記録の仕方に今一步の工夫が欲しい。日々の時間を追った記録でなく、Aさんが喜んだ事、悲しんだ事をAさんの発した言葉での記述がもっとあれば身体的、精神的変化がつかみやすいのではないのでしょうか。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子・ご本人の思いが感じられる言葉・しぐさ等記録に残すように努めている。又、モニタリングを行う上でより活用できるように一部記録の書き方の改善が図れるように努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の要望・状況に応じて、柔軟に対応し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域生活者として、これまでの生活を継続できるよう、活用していた地域資源を知ると共に柔軟に活用しながら支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医へ毎月通院介助を行い受診している。ご家族の方が同行して下さる方が少ないため、小さな変化等細かい様子についてもその都度連絡している。	事業所の協力医や以前のかかりつけ医へ毎月通院受診している。家族が同行できない場合が多く管理者が受診介助をして、普段の様子や変化を伝えている。体調変化のある時にはすぐ連絡、相談している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士で判断できないような場合、唐松荘の看護師に相談し助言を受けることがある。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を医療機関に提供し連携を図っている。又、入院中職員がお見舞いに行く中で、家族や看護師との情報交換を行い退院支援に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ該当者がいないが、ターミナルケアに関する指針に則り、可能な限り支援する方針がある。	本人、家族がこのホームでずっと生活することを望み、医療行為が必要でなければ、医師・看護師・家族と協力し、可能な限り支援していきたいと考えているが、まだ看取りの例はない。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修や消防署の協力を得て救急手当や蘇生法の研修を実施し、事故発生時に対応できるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月特養と合同による避難の実践訓練や非常用機器の取り扱い、夜間想定訓練などを行っている。地元消防団との合同練習を行うこともある。	特養と合同で避難訓練や夜間想定訓練、非常用機器の取り扱いなど毎月行っている。スプリンクラーは平成23年度に設置を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その都度利用者一人一人の思いを大切にしてお聴きしながら、自尊心を傷つけないような言葉かけ・対応について配慮している。	一人ひとりの気持ちを大切にじっくり話を聞き、できることや得意な事を見つけ、それをやってもらい自信を付けている。自分の割烹着を付けていそいそ手伝ってのお姿が印象的だった。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアの中で、ご利用者の方の状態に合わせて、選びやすいような選択肢を用意して、ご本人が自己決定できるように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のペースを大切に体調等に配慮し、その時々のお気持ち・希望をお聴きし、ご本人のお気持ちを尊重しながら支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向を大切にしながら支援している。行事・外出時等、一緒に服を選んだりお化粧をしたりして、楽しみがもてるよう働きかけをしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付け等できる方と、それぞれできる事を一緒にして頂いている。食事は職員も同じテーブルを囲んで楽しく食事できるようにしている。	特養の管理栄養士の立てた献立を基にホームで手作りしている。利用者のできる事はどしどし手伝ってもらっている。割烹着を付けて色々手伝っている。食事は職員も同じテーブルで楽しく食事している。一人で食べたい人への配慮も忘れない。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立をもとに栄養バランスは確保できている。個々に合わせて食事量・水分量のチェックを行い確認している。疾病に応じて調理法等工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者の状態に合わせて、できる方は声掛け・見守りを行い、出来ない方については口腔ケアを行っている。又、朝・夕とイソジンでのうがいを徹底して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の方それぞれの排泄パターンを確認して、ご利用者の様子等から察知して自尊心に配慮してさりげなく声をかけ、トイレでの排泄をそれぞれの方にあった方法で支援している。	各自の排泄パターンをつかみ、そっと声掛けをしてトイレ誘導している。入院中おしめだった方が適切な声掛けと誘導で、おしめが取れ、紙パンツになった例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には毎朝牛乳等飲んで頂き十分な水分摂取ができるように努め、又腸の動きをよくするために、体操・散歩などの運動へ参加して頂けるよう働きかけをして取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者のその日の希望等お聴きしながら、一人一人の方に合わせた入浴方法にてゆったり入って頂けるよう支援している。体調面にも気をつけ、入浴前はバイタルチェックを必ず行っている。	本人が希望し、体調に問題がなければ毎日でも入浴できるが平均週2～3回、広い浴室にゆったりした浴槽、「ええ気持ちじゃ、一緒に入りんさい」と誘ってくれる。入浴拒否の方には大好きな歌を一緒に歌いながら入浴する。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を大切にしながら休息する時間等取り入れ、なるべく日中の活動についての働きかけをして、生活リズムが図れるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方・副作用の説明をファイルに保管して職員がいつでも確認できるようにしている。薬に変更があった場合、連絡簿に記入して状態の観察に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの力に応じた役割を持っていただき、感謝の言葉を伝えご利用者の持っておられる力が発揮できるように働きかけをしている。ご本人の趣味等活かし楽しく生活できるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の気分や体調等により、散歩や買い物等出かけ、季節を感じて頂けるような外出支援を行っている。	その日の気分や体調により散歩に行ったり、特養の売店に買物に行くこともある。地域の文化祭や法人の催しに参加する事も多い。また、お花見や紅葉狩りなど季節の変化も楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で支払い管理できる方は持って頂き、外出時等ご自分で支払いをしてもらう事により社会性の維持につなげている。本人の意向とご家族の方に相談しながら支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙が書ける方にはやり取りができるよう支援している。又、働きかけを行いご家族の方に電話をしたりする機会を作っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、ご利用者の方と一緒に考え協力してもらい、飾りつけを行い季節感がだせるよう配慮している。又、居場所づくりができ思い思いの場所で過ごせるよう工夫している。	リビングは広く、一角には畳が敷かれコタツもある。5年経っているのに隅々まで掃除が行き届いている。対面キッチンから料理の美味しそうな匂いが漂い、我が家にいるように寛げる。壁にはみんなで作成したお雛様が飾られ、季節も感じ取れる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファや椅子を置いて、その時々で気分が仲のよい利用者の方と、お茶を飲んだり話しをされ思い思いに過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の方と話しをしながら、家具等できるだけなじみの物を持ちこんで頂き居心地のよい空間作りができるようにしている。	広い居室にはベッド、トイレが設置され、それぞれ使い慣れたタンスやソファを持ち込み、壁には家族の写真や自分の作品を飾り、居心地良く生活出来るよう配慮されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に利用者の方の視点にたち、危険な要因はないかなど安全面に配慮して環境整備を行っている。		